

レビ記最後の3章を日曜日に読み、月曜日から民数記を読みます。

レビ記はホレブでの1ヶ月のことを書いていますが、民数記はホレブからカナンの地への39年間の記録です。約束の地まで数百キロメートルの道のりに40年近く要した経過が記されているわけです。兵役に就ける男子の数で人口調査が行われて出発し、まもなく斥候の報告を受けてカナンに入るはずのところ、民がためらったので進入は取り止めになります。エジプトでの生活が忘れられない世代のつづやきは大きい障害であり、世代の交代を待つことになります。20章でエドムに移動するまでの39年の経過がはっきり書かれず、33章であらためて地名順に記しています。地図上の地名を完全に照合することは難しく、進路が十分に確認できないもどかしさがありますが、裏面に主な経過の地図を載せましたので、時々辿ってみてください。その中でも、カデシュ・バルネアは重要な地名ですから、記憶しておきましょう。

(2月5日～2月11日)

- (日) **レビ記24-27章**：神の御名を冒瀆した者への処罰を具体的に。安息の年、ヨベルの年の詳しい説明、その精神も。偶像崇拜禁止の再確認。神が祝福されること、逆に呪いがかけられることを契約にさかのぼって説明され、レビ記が終わる。
- (月) **民数記1-3章**：シナイの荒野で12部族ごとの人口調査。アロンの子らによる祭儀が始められた翌月である。20歳以上の徴兵可能な男子が60万人余。宿営地で各部族が占める配置も決められた。レビ族も3氏族ごとに幕屋の取扱い、警備の仕事が詳細に決められます。
- (火) **4-7章**：レビ族も詳しく人口調査が行われる。汚れた者の隔離、祭司への礼物、姦淫の疑惑の妻の処遇、特別な請願をたてる者ナジル人の規定などレビ記の続きの内容が書かれる。祭司となったアロンの祝福の言葉。幕屋建設を祝い、運搬用牛車と雄牛の贈呈、部族ごとに毎日献げ物がささげられる。
- (水) **8-10章**：レビ人の聖別のしかた、また幕屋での務めは50歳でひくことを明記。葬儀や旅行のために過越の祭りに参加できなかった者の月遅れの祭りについて。旅立ちと宿営が主の雲に導かれたことが記される。エジプトを出てから2年目の20日、遂にホレブの山麓を出発。見送りに来たモーセの義兄に、モーセは今後の道案内を懇願した。
- (木) **11-13章**：移動を始めるとさっそく民は不平不満、同行していた他国の者の煽動でマナばかりと攻撃。モーセは長老70人を立て、補佐に。うずらが大量に飛来、民は肉をたらふく食べたが、疫病で死者も。ミリアムとアロンがモーセ優位を攻撃、主の裁きでミリアムが発病。カデシュ到着、カナンの地を偵察、強そうな先住民に民はおじけづいた。
- (金) **14-17章**：頭をたててエジプトに帰ろうと叫ぶ民。積極意見のカレブとヨシュアを殺せとも。主は激しく怒り、またもモーセのとりにし。主は世代交代を待つと宣言、あせった民は無策のまま北上し、強いアマレク人に撃破された。レビ人コラが体制に反逆、家族とともに地に吞まれ、共謀者250人も主の火に焼かれた。厳罰への不満を抱く民、主は多くの民を疫病にかからせる。アロンの杖が芽を吹いたことでレビ人の指導性を強調。
- (土) **18-20章**：祭司アロン、その子らとレビ人の身分規定。ここまで38年が経過。2度目？のカデシュ到着後、ミリアム死亡。モーセが岩を打って争い(メバ)の水を出す。このあと、エドムの地を迂回することに。40年目の北上を開始し、ホル山の山麓でアロンが死ぬ。

臨在の幕屋

